

二〇一九年六月二一日

浮世絵のやうに走りし夕立かな  
尻上げて指先ほどの子蠶螂

たか子  
なつき

二〇一九年六月二〇日

茅花咲く島の緊急滑走路  
京薄暑肩中ほどの路地をゆく  
同郷の夫婦の訛り茗荷汁  
潮風の通ふ畑に辣蕪掘る  
降りさうで降らぬ一日や蝸牛

なつき  
菜々  
よう子  
智恵子  
こすもす

二〇一九年六月一九日

庭先の鉢に収穫茄子胡瓜  
保育士が人魚に扮し海開き  
カメラマン欄に整列滝見台  
野良猫が道案内す菖蒲苑

はく子  
さつき  
さつき  
ぼんこ

二〇一九年六月一八日

身構へし守宮の喉の息遣ひ  
苔庭の松の根方に梅雨きのこ  
せせらぎに一つ瞬く螢かな  
投句箱戸口に置かれ滝見茶屋  
一望の青田に四囲の山襖  
大夕立コンクリートを穿つやに  
姫女苑叢を二夕分け風の道

宏 虎  
菜々  
せいじ  
さつき  
やよい  
素 秀  
ぼんこ

二〇一九年六月一七日

睡蓮の浮島なせる池広し  
泣いてるやうに潤みて梅雨の月

よし女  
明日香

二〇一九年六月一六日

割烹の品書新た文字涼し  
梅雨寒や芳名帖の文字滲む  
噴水の踊りに睡魔覚えけり  
朱の鉄橋駆けるD51万緑裡  
鍵要らぬ離島の暮らし紫蘇の花

かかし  
よう子  
たか子  
智恵子  
宏 虎

二〇一九年六月一五日

台杉の秀の直立す大夕焼  
恙無き余生の暮し心太

明日香  
宏 虎

毎日句会みのる選・二〇一九年六月二三日